



一般社団法人 多文化社会専門職機構

文化庁委託「令和5年度現職日本語教師研修プログラム普及事業」地域日本語教育コーディネーター研修

(9)日本語教育に関わる人材の育成②

日本語教育人材育成の取組みの視点と、地域日本語教育における
コーディネーターとの連携について学ぶ。

新居 みどり

(NPO法人国際活動市民中心コーディネーター)



一般社団法人 多文化社会専門職機構

文化庁委託「令和5年度現職日本語教師研修プログラム普及事業」地域日本語教育コーディネーター研修

(9)日本語教育に関わる人材の育成②

講師:新居 みどり

(NPO法人国際活動市民中心コーディネーター)

東京外国語大学多言語多文化教育研究センター
国際移住機関(IOM)のコンサルタントを経て、
2011年よりCINGAコーディネーターとして勤務。
CINGAでは対外的なネットワークづくりや、新規事業の立ち上げなどを担当。



CINGA日本語学習支援者に対する 研修プログラム普及事業について

特定非営利活動法人 国際活動市民中心(CINGA)

CINGAとは

NPO法人国際活動市民中心 Citizen's Network for Global Activities

特徴:外国人の支援を行う専門家のネットワーク組織
支援者を支える中間支援・コーディネート組織

弁護士、行政書士、心の相談、労働相談、社会福祉士、社会保険労務士、通訳者、日本語教師、メディア関係者、
協会職員などが専門性を活かして市民活動を行っている。2004年設立、会員数47名

- ・東京都外国人新型コロナ生活相談センター(TOCOS)協力実施(2020年度)
- ・東京出入国在留管理局主管 外国人総合相談支援センター／東京開業ワンストップセンター受託(2012～現在)
- ・外国人技能実習機構母国語相談センター受託(2018年度～現在)
- ・文化庁 日本語教育人材の研修カリキュラム開発事業【日本語学習支援者に対する研修】(2018、2019年度)
- ・無料多言語専門家相談事業(毎週2回の専門家相談会実施)自主事業
- ・少数言語通訳者の派遣コーディネート事業(2018、2019年東京都助成対象事業)
- ・文化庁 日本語教育人材の研修プログラム普及事業【日本語学習支援者に対する研修】(2020～2022年度)
- ・文化庁 「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 基礎日本語教育実践研究(2021、2022年度)

なぜCINGAが日本語学習支援者研修を？

従来



市民参加の日本語教室は、【外国人の日本語学習機会】【生活者としての日本人と外国人との接点】として重要な役割を果たしていた。



一方、【日本語学習支援についての公的な指針の欠如】【日本語教室の偏り】という課題があった。



2018年「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)」が発行された。

「日本語学習支援者に対する研修カリキュラム開発事業」

* 9区分のうち、唯一日本語教師ではなく日本語学習支援者が対象

「日本語学習支援者」→「日本語学習」を「支援する人」

この名称から想像される活動だけが「日本語学習支援者」の役割か？

5

なぜCINGAが日本語学習支援者研修を？

「生活者としての外国人」→「日本語学習」が来日目的ではない人が大半
日本語の学習を支援しようと、その点にだけ注目すると日本語学習支援はうまくいかない



学習支援の目的、学習支援の方法を考えるときに
多文化共生、文化理解、地域づくりといった視点が欠かせない

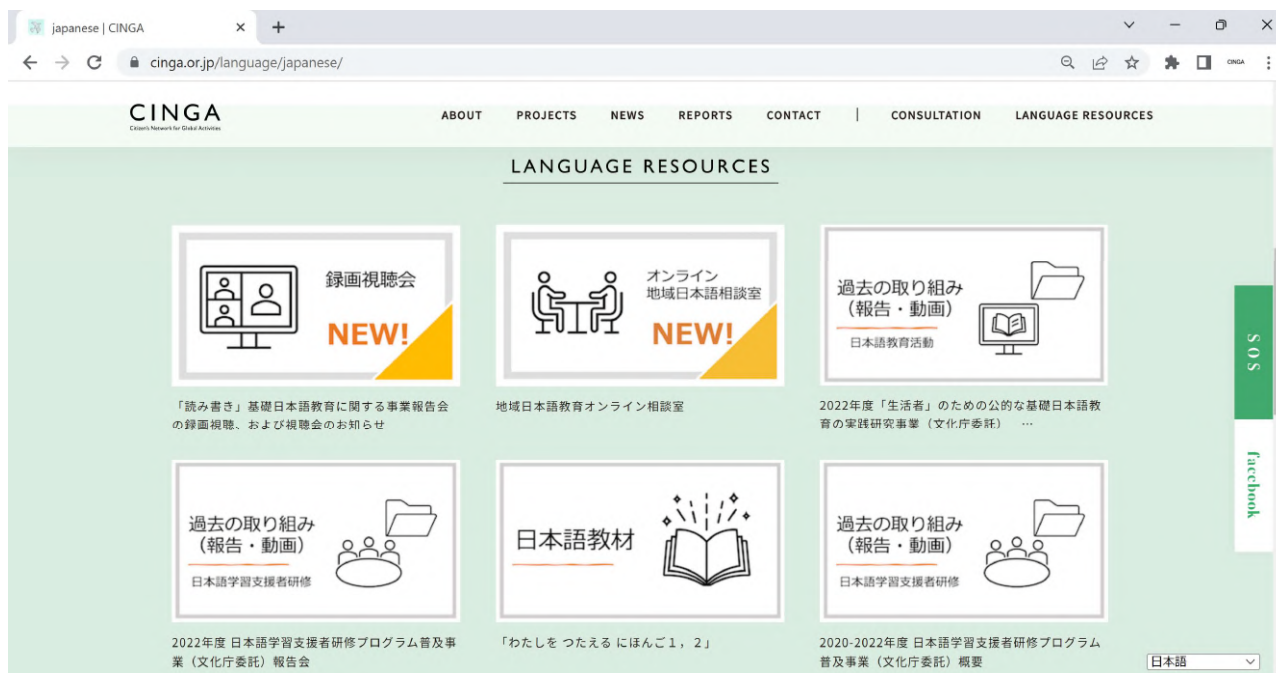


専門家集団CINGA:

➤ 市民活動として長く外国人支援を担い、多文化共生社会に関する研究や講座実施にも実績

これまでの知見を活かし、地域住民の日本語教室活動への参加が「多様な言語・文化に対する理解が深まり、多文化共生社会に向けた住みやすい地域づくりや地域の活性化につながる」ことを目標にした研修カリキュラムを開発したいと考え、事業要件を満たしつつも、要件の枠を超えた研修カリキュラムづくりを目指した。

6



7

事業実施の体制

- アドバイザー
 - 神吉宇一 (武蔵野大学)
 - 矢崎理恵 (さぼうと21)
 - 矢部まゆみ (横浜国立大学ほか)
 - 山西優二 (早稲田大学文学学術院)
- CINGA システムコーディネーター 新居みどり (CINGA)
- CINGA プログラムコーディネーター 萬浪絵理、西山陽子(CINGA)
- 事業評価委員
 - 小山紳一郎 (SIDラボ)
 - 千葉偉才也 (リテラシー・ラボ)
 - 長江春子 (国際文化フォーラム)
 - 藤井美香 (横浜市国際交流協会)

8

CINGA日本語学習支援者研修カリキュラム概要

知識	技能	態度
(1) 日本語や日本文化、社会、多文化共生に対する一般的な知識・理解を持っている。	(1) 分かりやすく伝えるために、学習者に合わせて自身の日本語を調整することができる。	(1) 学習者の背景や現状を理解しようとする。
(2) 日本語教育に関わる機関・団体及び関係者による支援体制と自らに期待される役割について理解している。	(2) 学習者の発話を促すために、耳を傾けるとともに自身の発話を調整することができる。	(2) 学習者の言語や文化を尊重し、対等な立場で接しようとする。
(3) 学習者の来日の経緯、母国言語・文化背景、日本語の学習目的に対する一定の知識を持っている。	(3) 日本語教育コーディネーターや日本語教師と共に、日本語学習を支援することができる。	(3) 学習者や支援者などと良好な対人関係を築こうとする。
(4) 異文化理解や異文化間コミュニケーション、コミュニケーション能力に関する基礎的な知識を持っている。	(4) 学習者の状況を観察し、日本語教師や日本語教育コーディネーターの助言を得ながら、学習方法や学習内容を学習者に合わせて工夫することができる。	(4) 学習者が自ら学ぶ力を育み、その学びに寄り添おうとする。
(5) 日本語の構造や日本語学習支援に関する基本的な知識を持っている。	(5) 異なる考えや価値観を持つ他者と協働できる柔軟性を持とうとする。	(5) 異なる考えや価値観を持つ他者と協働できる柔軟性を持とうとする。

(備考) 表 11「日本語学習支援者に望まれる資質・能力」は、表 1~10を前提とするものではない。

『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版』2019、文化審議会国語分科会 p.34

日本語学習支援者研修の配布資料「学習項目」

日本語学習支援者に望まれる資質・能力を
わかりやすいことばで提示したもの

日本語学習支援と文化理解を学ぶ講座 多文化共生のまちづくりをめざして

学習項目

このシートは、この講座で考えること・学ぶことを項目化し9項目です。

- ☑ 多文化共生 外国人の来日の経緯や文化背景 日本語教室に関わる人や機関の役割
- ☑ 現在の日本における外国人に関わる問題 日本語教育支援者、日本語教育コーディネーター、日本語教師の役割
- ☑ 移住文化への視点 相手の文化への理解 日本語教師と学習者
- ☑ 地域の日本語学習の場 相手に合わせた話し方、聴き方 相手の文化への理解
- ☑ 「わがしらしさ」を表現する手助け 相手に合わせた話し方、聴き方 相手の文化への理解
- ☑ 住民相互の協力による地域づくり 相手のことばや文化を尊重して、対等な立場で接すること 人が自ら学ぶ力ややる力を育み、その学びに寄り添う 異なる考えや価値観を持つ他者との協働 良好な人間関係作り

CINGA日本語学習支援者研修カリキュラム概要

目標は、参加者に3つの気づきをもたらすこと

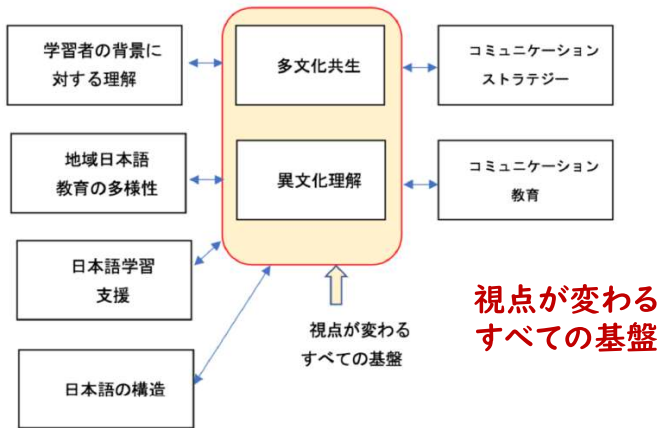
- ・ 他者理解のために、個の文化、新たに作り出される文化など、文化のさまざまな側面への気づき
- ・ 言語調整能力を上げることの大切への気づき
- ・ 相手のことばを受容することの大切さへの気づき

多様な市民活動
日本語教室
日常生活

多文化共生の
市民社会形成

CINGA日本語学習支援者研修カリキュラム概要

教育内容



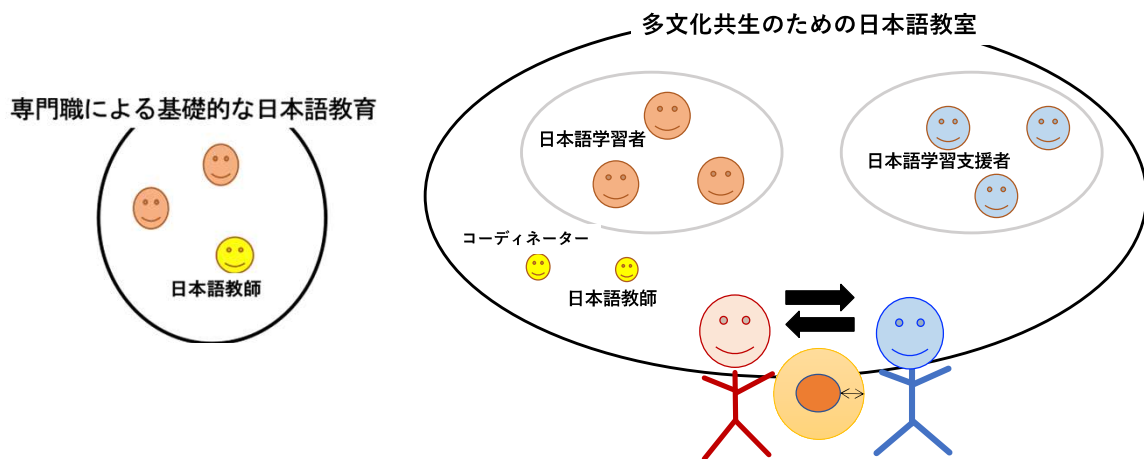
日本語学習支援者研修には、8つの教育内容を含めることになっている。

CINGAカリキュラムでは、8つの内容のうち、「**多文化共生**」と「**文化理解**」を研修全体の柱とし、その他の内容はすべてがこの2点の理解につながるよう設計されている。

この2点の理解のために、研修の方法として、**対話**と**ふりかえり**を重視

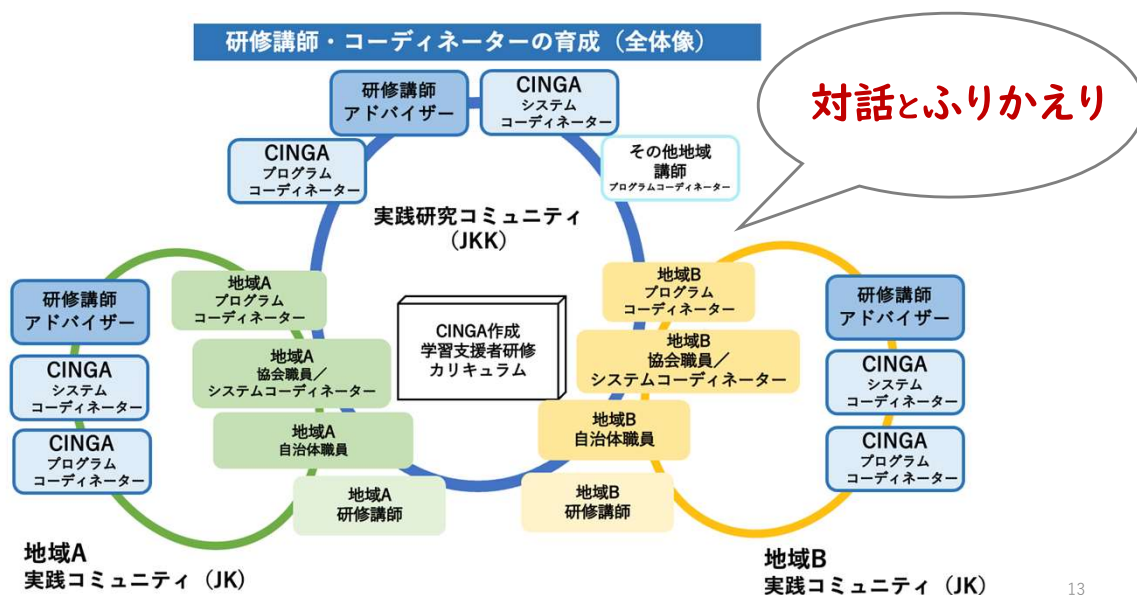
図7 8つの教育内容の関係

CINGA日本語学習支援者研修カリキュラム概要



学習者は学習支援者との対話の中で新たな言葉を得て、「話せること/できること」の範囲を徐々に広げていく。学習支援者は聴いて引き出し、ともにことばを作っていく。

日本語学習支援者研修プログラム普及事業概要



13

日本語学習支援者研修プログラム普及事業概要

地名	山梨	千葉	長崎	札幌	茨城
研修実施年	R4	R3	R3	R2	R2
研修実施地 (主な対象地域)	大月市、笛吹市 北杜市、 南アルプス市	八街市 千葉県全域	長崎県全域	札幌市	下妻市 坂東市
研修実施形式	オンライン	オンライン	オンライン	オンライン	オンライン
研修時間	3時間×5回	3時間×5回 (各地域)	プレ企画(1回×1時間) 1.5時間×5回	3時間×5回	3時間×5回 (各地域)
修了者数 (受講者数)	50名 (53名)	53名 (55名)	26名 (30名)	48名 (51名)	36名 (41名)
研修後の活動場所	体制づくり推進事業 日本語モデル教室	基礎自治体国際交流協会 関連団体 任意団体	任意団体	国際交流協会主催講座 任意団体	基礎自治体国際交流協会 関連団体 任意団体

日本語学習支援者研修プログラム普及事業概要

地名	山梨	千葉	長崎	札幌	茨城
地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業との関係	事業の一部として実施	事業の一部として実施	なし (翌年から)	なし	事業の一部として実施
普及事業参加機関	山梨県 ユニタス日本語学校	千葉県 千葉県国際交流センター	長崎県 長崎県国際交流協会	札幌国際プラザ	茨城県 茨城県国際交流協会
主催共催協力	山梨県	千葉県 (千葉県国際交流センター) 八街市、八街国際交流協会	CINGA 長崎県国際交流協会 長崎県	札幌国際プラザ	茨城県国際交流協会
研修講師	<ul style="list-style-type: none"> ●文化庁コーディネーター研修修了者 ●県内大学講師 ●県内日本語学校講師 	<ul style="list-style-type: none"> ●文化庁コーディネーター研修修了者 ●県内大学講師 ●県内日本語学校講師 	<ul style="list-style-type: none"> ●県内大学講師 ●県外講師 	<ul style="list-style-type: none"> ●北海道日本語センター講師 ●道内大学講師 	<ul style="list-style-type: none"> ●文化庁コーディネーター研修修了者 ●茨城県内大学講師 ●茨城県日本語教育アドバイザー登録講師

5地域との関わりから見えた成果と課題



- 対話 ●ふりかえり ●新たな視点の獲得

5地域との関わりから見えた成果と課題

研修実施者が実践研究コミュニティでプラスになったと捉えたこと

(5地域における実践研究コミュニティアンケート結果)

- 多文化共生の実現を目指す人とのつながり、ネットワークの構築
- 多様な参加者との議論
- 新たな視点の獲得
- 体制作りに関する理解の深まり
- 理念の共有
- 多文化共生に対する考え



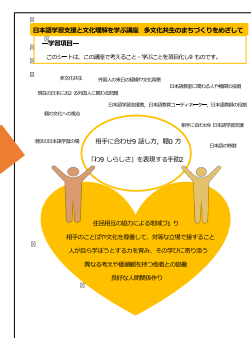
17

5地域との関わりから見えた成果と課題

日本語学習支援者研修受講者自身が感じた自らの変化・気づき

(5地域における日本語学習支援者研修アンケート結果)

- 多文化共生に対する考え
- 相互学習、相互理解の大切さ
- 相手の言葉や文化を受け入れることの大切さ
- 相手に合わせた言語調整能力の必要性
- 他者との協働の楽しさ



18

5地域との関わりから見えた成果と課題

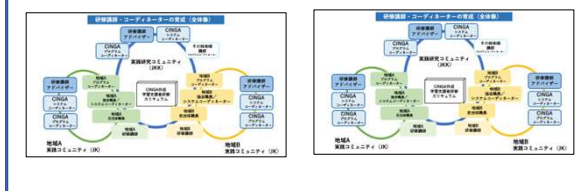
実践者の力量形成とネットワークづくりに対する支援

・実践研究コミュニティ、実践コミュニティという場の設定
(実践者の地域におけるコミュニティ作り)



・中長期的なふりかえりの場の設定
(フォローアップ研究会、報告会)

フォローアップ研究会・4地域合同報告会



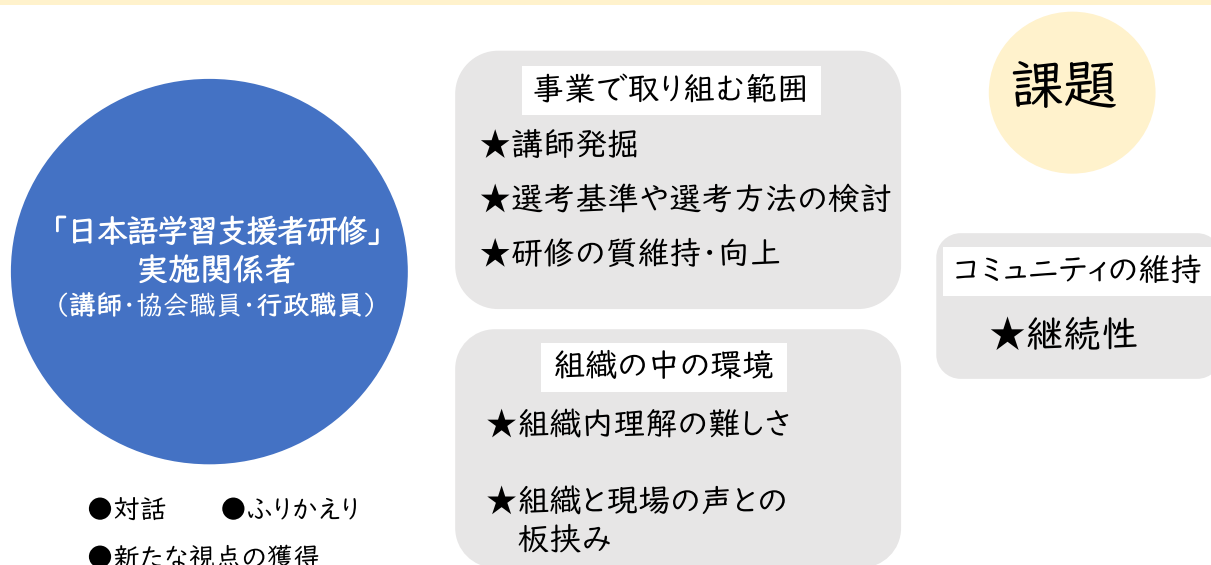
5地域との関わりから見えた成果と課題

中長期的なふりかえりの場の設定 (フォローアップ研究会、4地域合同報告会)

(4地域合同報告会登壇者アンケート結果)

- ・ 専門性をつけるために勉強になった。自分の自治体だけという狭い観点からの脱却。
- ・ 一緒に次の目標のようなものが確認できた
- ・ 他地域の方々と悩みが共有できた。
- ・ 取り組みを発表するために何度も練り直したことで、自地域への説明にも生かされると自信がついた。
- ・ 各団体の取組内容を知ることができ、その中で自分たちが取り組むことは何か明確になった。
- ・ 自分たちが取り組んできたことや大切にしてきたことについて、言語化する中で思考も整理された
- ・ 他の地域のその後、特に“うまくいっていない部分”も知ることができたのは、今後の事業計画の策定と展開に活かせる

5地域との関わりから見えた成果と課題



21

5地域との関わりから見えた成果と課題

出口設定により可能となる研修のPDCA

- 研修のプログラムコーディネーターが研修出口の教室活動もコーディネートすることで、研修の教育内容と合わせた教室活動プログラムを実施可能。
- 研修効果を活動実践の中で測り、評価・改善するという循環が可能。



山梨県

カリキュラム開発時研修実施地 港区

5地域との関わりから見えた成果と課題

出口設定により可能となる研修のPDCA

- 研修のプログラムコーディネーターが研修出口の教室活動もコーディネートすることで、研修の教育内容と合わせた教室活動プログラムを実施可能。
- 研修効果を活動実践の中で測り、評価・改善するという循環が可能。



山梨県

カリキュラム開発時研修実施地 港区

5地域との関わりから見えた成果と課題

地域にしがらみのない中間支援組織が実施したことの意義

- 「外部により作成されたカリキュラム」の存在
 - 「緩衝材」としての存在
 - 「外部の視点」としての存在
 - 「伴走者」としての存在
- 地域関係者が方向を同じくして動き出すことを後押し

日本語学習支援者研修プログラム普及事業の意義：

研修実施に関わる**人のつながり**が生まれ、
実践コミュニティが形作られていくこと

25

3年間の地域日本語教育をとりまく状況の変化



文化庁「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」が多くの地域で実施されるようになり、コーディネーターの配置が進んでいる。「日本語学習支援者研修」が他の取組と一体で検討されるための環境ができてきた。



地域日本語教育において、「自立した言語使用者（B1レベル）」をめざすこととする方向性が示され、関係者の一部には不安や動揺が広がっている。

➤ 「日本語学習支援者」の役割の再確認

26

CINGA
CINet's Network for Global Activities

ABOUT PROJECTS NEWS REPORTS CONTACT | CONSULTATION LANGUAGE RESOURCES

LANGUAGE RESOURCES

録画視聴会
NEW!

「読み書き」基礎日本語教育に関する事業報告会の録画視聴、および視聴会のお知らせ

オンライン地域日本語相談室
NEW!

地域日本語教育オンライン相談室

過去の取り組み (報告・動画)
日本語教育活動

2022年度「生活者」のための公的な基礎日本語教育の実践研究事業（文化庁委託） …

過去の取り組み (報告・動画)
日本語学習支援者研修

2022年度 日本語学習支援者研修プログラム普及事業（文化庁委託） 報告会

日本語教材

「わたしをつたえる にほんご1, 2」

過去の取り組み (報告・動画)
日本語学習支援者研修

2020-2022年度 日本語学習支援者研修プログラム普及事業（文化庁委託） 概要

日本語

SOS
facebook